

今も走り続け、受け継がれる

 尾小屋鉄道



SINCE 1919.11.26/UNTIL 1977.3.19



尾小屋鉄道 開業100年 記念復刻硬券



なかよし鉄道

石川県小松市の粟津公園内に昭和59年、修復移設され、全長473mのなかよしの森までの区間を今でも走り続け、ご乗車いただくことができます。ディーゼル機関車DC121、気動車キハ1、客車、ホハフ3、ホハフ8の4両が動態保存されています。土・日曜に2回、水曜に1回運行(冬期連休) 乗車無料、JR粟津駅より徒歩約7分

ポッポ汽車展示館

小松市の山深く、旧尾小屋駅跡に保管されていた尾小屋鉄道の蒸気機関車5号機、気動車キハ3、客車ハフ1の3両を移設し、展示公開しています。移設に伴い全車両が再塗装され、なつかしの尾小屋鉄道を守る会によって動態保存されています。5~10月は、月1回程度イベントを開催(冬期休館) 入館無料、尾小屋バス停より徒歩約10分



尾小屋鉱山資料館

明治・大正・昭和と日本有数の鉱山として栄えた尾小屋鉱山。採掘当時の道具や鉱物が展示され、旧坑道を歩ける体験型展示施設のメインロードを併設。鉱山の発展とともに歴史を歩んだ尾小屋鉄道の資料も展示され、鉱山と鉄道の往時の姿を今に伝えています。

水曜休館(冬期休館)
入館500円、尾小屋バス停より徒歩約10分



監修・写真提供

なつかしの尾小屋鉄道を守る会

寺本孝一様・坂井稔樹様・山本宗則様

発行 2019年7月

KOMATSU BUS

 小松バス株式会社



OGOYA RAILWAY HISTORY 1919-1977

尾小屋鉄道の歴史 (小松市史・西尾村史 引用)

- 1915年(大正 4年) 小松-尾小屋間の軽便鉄道敷設免許出願
- 1916年(大正 5年) 尾小屋鉱山所長[正田順太郎]が鉄道敷設免許を受ける
- 1917年(大正 6年) 敷設工事着工、蒸気機関車2両導入
- 1918年(大正 7年) 客車(ハフ1~3)3両、貨車17両導入
- 1919年(大正 8年) 施設竣工 旅客輸送の営業開始
- 1920年(大正 9年) 貨物運輸営業開始
- 合名会社・横山鉱業部が権利を譲り受ける
- 1923年(大正12年) 尾小屋鉄道株式会社発起人9名に権利を譲る
- 1929年(昭和 4年) 尾小屋鉄道株式会社設立
- 本店を小松町土居原に置く
- 1931年(昭和 6年) 経営が日本鉱業に移る
- 1936年(昭和11年) 本店を尾小屋に移転、小松に営業所を置く
- 1937年(昭和12年) 定員50人のキハ1気動車(ガソリンカー)を導入
- 1938年(昭和13年) 定員52人のキハ2気動車(ディーゼーカー)を導入
- 1950年(昭和25年) 三重交通よりボギー客車購入
- 1951年(昭和26年) No.5蒸気機関車を導入
- 1954年(昭和28年) ディーゼル機関車導入
- 1961年(昭和36年) 尾小屋鉱山が閉山となる
- 名古屋鉄道の関連会社となる
- 1964年(昭和39年) 定員60人のキハ3気動車(ディーゼーカー)を導入
- 1966年(昭和41年) 小松-尾小屋間のバス運行免許を受ける
- 1977年(昭和52年) 小松-尾小屋間の鉄道を廃線
- 社名を小松バス株式会社に変更



尾小屋鉄道 1919年(大正8年)11月26日開業
開業100年記念復刻硬券

新小松—尾小屋区間
路線距離 16.8km 16駅
762mm軌間、全線非電化

- 01 新小松
しんこまつ
- 02 西吉竹
にしよしたけ
- 03 吉竹
よしたけ
- 04 遊園地前
ゆうえんちまえ
- 05 花坂
はなさか
- 06 西大野
にしおおの
- 07 大杉谷口
おおすぎだにぐち
- 08 金野町
かねのまち
- 09 金平
かねひら
- 10 沢
さわ
- 11 塩原
しおはら
- 12 波佐羅
はさら
- 13 観音下
かながそ
- 14 倉谷口
くらだにぐち
- 15 長原
ながはら
- 16 尾小屋
おごや

尾小屋鉄道の開業から100年を記念して発行させていただきます。
尾小屋鉄道は1977年に廃線となりました。当硬券の使用及び換金等は出来ません。